

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【展覧会】

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。						
細事業別目標【展覧会】	中核的なパブリックアート事業となる岡本太郎作品を広く知ってもらふ展覧会と、実績ある美術館との連携事業によって発信と専門性を高める。						
展覧会名称	Art Meets 05 菊池敏正／馬場恵	横堀角次郎と仲間たち 草土社の細密画から、郷里赤城山の風景まで	時をつなぐ アーツ前橋所蔵作品から	横浜美術館コレクション 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史	岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの	56歳の迷選行 近藤嘉男と憧れのヨーロッパ航路	闇に刻む光 アジアの木版画運動 1930s-2010s
会期・日数	2018/3/17-2018/5/19 /51	2018/3/17-2018/5/29 /51	2018/6/14-2018/9/18 /84	2018/7/6-2017/9/3 /52	2018/10/5-2019/1/14 /81	2019/2/2-2019/3/24 /44	2019/2/2-2019/3/24 /44
場所	ギャラリー1	地下ギャラリー	ギャラリー1	地下ギャラリー	全ギャラリー	ギャラリー1	地下ギャラリー
学芸担当者	吉田	辻	辻	今井	忠、若山	若山	五十嵐
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等				巡回展	・前橋岡本太郎展実行委員会 ・自治総(シンポジウム助成) ・太陽の会		美術館連絡協議会、福岡アジア美術館との共同開催
最終修正日	2017/12/9	2017/12/11	2018/5/30	2018/7/16	2018/7/16	2018/11/20	2018/11/24
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	古典技法による木彫の菊池敏正と旧来からある銅版画技法を軸に、ミクストメディアで制作する馬場恵による、それぞれの技巧の面白さと、親しみやすい展覧会をめざす。 ターゲット:若者、美術になじみのない方 1. 新たな観客の獲得 2. 現役作家による、自然観察・描写の多様な見方を紹介する。 3. 二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介。	横堀角次郎の画業を振り返り、横堀の画家としての位置を探る。 ターゲット: 県内、美術愛好者 1. 地域作家の紹介 2. 所蔵品の文化的価値の提示、再評価 3. 岸田劉生など著名画家を紹介	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降の期間、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。 ターゲット: 近隣住民、市外の美術愛好者 1. コレクションへの理解が深まる 2. 前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3. 気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着	他館(横浜美術館)との連携を軸に他館のコレクションを利用した新しい形の企画展を目指す。横浜美術館の展示ノウハウの取得や人的交流を進める。地域に存在する中高年層の写真ファンをターゲットに集客を努め、当館の収蔵品には少ない、写真という芸術を楽しむ機会を創出する。 ターゲット: 県内、美術(特に写真)愛好家 1. 新たな観客の獲得 2. 美術館機能の高さのアピール 3. 収蔵作品への新たな視点の獲得 4. 長期的視点の美術館連携の可能性	広瀬川畔への《太陽の鐘》の移設に伴い、岡本太郎を紹介することで中心市街地地域全体の活性化につなげるとともに、新しい切り口で太郎を紹介することにより全国の岡本太郎ファンにアーツ前橋の活動を周知する。 ターゲット: 近隣住民、全国の岡本太郎ファン全般 1. 岡本太郎ファンを中心とした新たな観客の獲得 2. 官民学が行っている地域活性化に向けた活動を広く周知する。 3. 誰にでも開けた美術館としての活動を周知する。	前橋市が収蔵する近藤嘉男の作品を一室に会した特集形式のコレクション展。近藤が遺した1971年の欧州外遊時の日記を補助線として、郷土の画家の画業を振り返る。絵を描く喜びと生活の苦悩が半ばする「人間」としての近藤嘉男を紹介する。 ターゲット: 近隣住民、50代~60代の中高年層 ・郷土の戦後文化への関心を高める ・芸術作品を通して多様な生き方を知る(生涯学習) ・コレクションの活用方法の多様化	福岡アジア美術館との連携をもとに、版画表現を通じたアジアの交流史を見ることで、商品化・スペクタクル化する今日のアジア美術とは異なる、アジア美術の潜在力を探求する。 ターゲット: 関東近郊、近隣の外国人 アジア美術と版画の紹介により新たな客層の獲得
【①投入】 成立予算	1,863千円	13,360千円	628千円	8,156千円	11,277千円 (外シンポジウム3,000千円) (外協賛金)	628千円	10,845千円
【②内容・活動】 事業の概要	数理模型をモチーフに、古典技法を用いて彫刻作品をつくる菊池敏正と、植物の生態をモチーフに、植物標本の作品を版画で制作する馬場恵を紹介する。	大胡町出身の横堀角次郎の画業を振り返り、ともに歩んだ仲間たちの作品を加える	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	横浜美術館が開催した「昭和の肖像-写真でたどる昭和の人と歴史」展をベースに、アーツ前橋のギャラリーに合わせた展示を共同企画する。	『今日の芸術』から読み取れる岡本の思想を検証するとともに、活動の軌跡をさまざまな作品や資料によって紹介する。	近藤の絵画作品だけでなく、彼が遺したスクラップブックや写真も合わせた木版画を紹介し、新しいアジア近現代美術史の視点を提供できる鑑賞環境を作る。	1930年代から近年までに制作された東南アジアの社会運動と結びついた木版画を紹介し、新しいアジア近現代美術史の視点を提供。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	1. 親子向けのワークショップを計画する。	1. ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2. 広報前橋で横堀作品を探していることを告知(7/15号)	1. 新収蔵作品の公開 2. 作家研究に基づいた展示構成。 3. 鑑賞補助資料の作成(キャプション、配布物)	1. 他館との学芸レベルでの情報交換と協力関係の構築 2. 国内コレクションの豊かさを紹介 3. 来館者層の拡大	1. 岡本太郎研究者・春原史寛氏を監修者に迎えて展示を構成。 2. 関係各所と連携し、《太陽の鐘》移設について紹介。 3. 文化人を迎え岡本太郎を知るシンポジウムを実施	1. ひとりのアーティストに注目した特集展示という新しい形式を採用する 2. 新たな広報ツールをつくる	1. 巡回の展覧会に加え、アーツ前橋独自の企画展示を追加する 2. 地域の外国人コミュニティの呼び込み 3. 先行する他館の情報を利用し、告知を充実させる
【数値目標】 入場・参加者数	5,500人 (うち4/1以降 4,400人)	4,000人 (うち4/1以降 3,500人)	6,000人	5,000人	8,100人 (外 シンポジウム1,000人)	3,500人	3,000人
【人数及び達成率】	4,731人 86%	3,550人 89%	5,115人 85%	3,003人 60%	人 %	人 %	人 %
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)	・新たな観覧者層に美術の楽しみ方と、次回への期待を持たせることにつながった可能性がある。 ・ワークショップの参加者も多く、身近な対象物の意外な見え方は、興味を引くと思われる。 ・二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介した。	・アンケートによると市内52%、県内27%で、市内が半数を超えたのは初めて。 ・草土社時代の初期作品を紹介したことで、地元では「赤城山の作家」として知られる横堀の長い画業とその変遷を知ってもらった。 ・草土社時代では岸田劉生や椿貞雄とともに並べて比較することで、それぞれの個性や影響関係を伝えることができた。	・前橋空襲をテーマにした小泉明郎作品が、夏休み期間中の展示であったため反響が大きかった。 ・対話による作品鑑賞「おしゃべりアートデイズ」を30分と短くして、無料スペースで開催することで、気軽に作品を鑑賞してもらえるようにした。のべ61名参加した。	・横浜美術館の基準が±5%であったため、露点温度/乾球温度を調整し、温湿度管理を徹底した。照度に関しても作品保護に努めた。 ・石内都氏のような収蔵作家を「戦争」「女性」というコンテキストだけでなく、さらに大きな文脈で紹介できるように写真史を俯瞰して、今後の収蔵作品を考えていく必要性を感じることができた。 ・今回、横浜美術館と構築された信頼関係を元に、今後の企画展の共同制作など学芸員同士の交流を通じた企画も展開できるだろう。			
特記事項							

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

資料 1

事業名	時をつなぐ アーツ前橋所蔵作品から					
会期	平成30年6月14日(木)～平成30年9月18日(火)			開館日数	84 日間	
会場(ギャラリー)	アーツ前橋 ギャラリー1			実施方式	01自主企画・単独方式	
観覧料	一般	500 円		出品点数	14点	
	割引	300 円				
担当者	学芸:辻 瑞生 事務:新保 正夫					
目的	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降の期間、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。					
キーワード	コレクション紹介 「昭和の肖像」展への導入 現在・過去・未来					
他団体との連携 (共催、協力等)	特になし					
参加作家	小泉明郎	石内都	南城一夫	ほか、全11名		
関連イベント	8/20.21.23.21.24.26 おしゃべりアートデイズ					
	7/14,9/9 学芸員によるギャラリーツアー					
	8/18 こどもアート探検					
印刷物等	ポスター (A3)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
	1,200部	-	-	-	-	-
収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率 (A)/(B)	入館者一人 当たりコスト	収入内訳	
					観覧料	助成金
					他	
	予算	627,860 円	-	105 円	-	-
	決算	618,840 円	-	121 円	-	-
差額	-9,020 円	-	-	-	-	
予算/決算	98.6%	-	115.6%	-	-	
【②内容】 事業の概要	事業の概要 (転記)	新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降の期間、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。				
【②活動】 主な取組(手段)の 結果 メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	広報戦略 新たな試み (転記)	ターゲット: 近隣住民、市外の美術愛好者 1.コレクションへの理解が深まる 2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着				
●指標 来館者反応 手こたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	A3ポスターの作成 高崎地域新聞				
	新たな試 みの実績	2017年度新収蔵作品の多くが、過去1,2年で展示している作品が多かったために、新収蔵作品の紹介は行わなかった。かわりに、地下ギャラリーの企画展「昭和の肖像」展にあわせて、「時、時間、歴史」をテーマとして、近現代の画家が生きた時代を伝える風景、産業、生活者を描いた作品や、現代のアーティストが地域の歴史を題材とした作品を紹介した。				

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

資料1

③ 結果	事業名	時をつなぐ アーツ前橋所蔵作品から				
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
		入場・参加者数	6,000 人	5,115 人	85.3 %	
	展覧会満足度	80 %	72.8 %	-7.2 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)	
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ ②遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項()				
④ 成果	④成果 一覧表の「目標」に対する結果 観覧者層のターゲット ねらい	観覧者層のターゲット (転記)	近隣住民、市外の美術愛好者			
		成果	アーツ前橋および前橋市の所蔵作品の展示をのぞむ人たちが来館したかどうか、現在の統計ではわからない。			
		ねらい1 (転記)	1.コレクションへの理解が深まる			
		成果	前橋空襲をテーマにした小泉明郎《捕われた声》を、夏休み期間中の展示であったため反響が大きかった。			
		ねらい2 (転記)	2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会			
		成果	物故、現存の前橋ゆかりの作家、開館前後からアーツ前橋の活動にかかわってきた作家の作品を紹介することができた。			
	ねらい3 (転記)	3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着				
成果	対話による作品鑑賞「おしゃべりアートデイズ」を30分と短くして、無料スペースで開催することで、気軽に作品を鑑賞してもらえるようにした。のべ61名参加した。					
⑤ 波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正(記入日を()内に記載)	<1~6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。>				
		1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. 事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒ 幸田千依の滞在制作の成果作品を通して、当時の関係者から地域の思い出が話される機会となった 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒ 収蔵作品を繰り返し紹介することでアーツナビゲーターのスキルアップに繋がった 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒該当なし 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒該当なし				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	課題・改善点	本展のみを鑑賞した場合は、気軽に作品鑑賞できる一方で、作品数が少ないというコメントも寄せられた。しかし地下ギャラリー開催期間中では、地下の展覧会と比較してみていただいたり、導入としても機能したようだ。自治会の掲示板などに掲出しやすいA3ポスターサイズを製作しているが、効果的な広報となっているのか検討が必要か。				
引継ぎ事項(特記事項)	今回は地下の展示企画に内容を寄せる方向でテーマ付けしたが、今後はその都度テーマを決めるのではなく、2,3年の計画を立てることで、計画的に収蔵作品の調査をすることができるのではないかと。					
コメント・意見	館長 副館長	収蔵品のお披露目だけでなく、「おしゃべりアートツアー」や企画展との連動など、複数の事業の接点を果たす目的が果たせたのはとてもよかった。収蔵品の調査を進めるために今後の実施方法についてさらに議論をしていきたい。				
	運営 評議会					

変わった風景

変わらぬ風景

歴史や文化を題材に

今と昔をつなぐ

絵画や写真を展示

時をつなぐ

—— アーツ前橋所蔵作品から ——



2018.6.14(木)～9.18(火)

会場／アーツ前橋ギャラリー1 (群馬県前橋市千代田町5-1-16)

開館時間／11時から19時まで (入場は18時30分まで) 休館日／水曜日

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16

Tel: 027-230-1144 URL: <http://artsmaebashi.jp/>

e-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

【関連イベント】

おしゃべりアートデイズ

作品について気づいたこと、感じたことなどを自由に話しながら自分以外の誰かと作品と一緒に見ることの楽しさを体験します
8月20日(月)、21日(火)、23日(木)、24日(金)、25日(土)、26日(日)
*詳細はお問い合わせください

学芸員によるギャラリーツアー

7月14日(土)、9月9日(日) 14時から14時30分

こどもアート探検

8月18日(土) 15時から15時30分

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

資料1

基本事項	事業名	横浜美術館コレクション 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史						
	会期	平成30年7月6日(金)～平成30年9月3日(月)			開館日数	52 日間		
	会場(ギャラリー)	アーツ前橋 地下ギャラリー			実施方式	01自主企画・単独方式		
	観覧料	一般	500 円		出品点数	335 点		
		割引	300 円					
	担当者	学芸:今井 朋 事務:佐藤 恵司						
	目的	他館(横浜美術館)との連携を軸に他館のコレクションを利用した新しい形の企画展を目指す。横浜美術館の展示ノウハウの取得や人的交流を進める。地域に存在する中高年層の写真ファンをターゲットに集客を努め、当館の収蔵品には少ない、写真という芸術を楽しむ機会を創出する。						
	キーワード	昭和の歴史 写真史 横浜 肖像 他館連携						
	他団体との連携 (共催・協力等)	横浜美術館						
		前橋写真月間						
参加作家	石内都	ロバート・キャバ	土門拳	須田一政ほか				
関連イベント	7/28 倉石信乃(明治大学教授・写真史)レクチャー「戦時下の写真家たち」							
	8/11 石内都(本展出品作家)×小泉明郎(アーティスト)対談							
	7/22, 8/18 学芸員によるギャラリートーク							
	8/19 ロビーライブ vol.17 ジャズ							
① 投入(支出)・③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ	セルフガイド	出品目録	図録	
		1,500 部	73,000 部		4,000 部	4,000 部		
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳		
						観覧料	助成金	他
		予算	750,000 円	8,155,440 円	9.2%	1,631 円	750,000 円	
決算		433,300 円	8,126,800 円	5.3%	2,706 円	433,300 円		
差額	-316,700 円	-28,640 円	-3.9%	-	-316,700 円			
予算/決算	57.8%	99.6%	58.0%	165.9%	57.8%			
② 内容・活動	【②内容】 事業の概要	事業の概要 (転記)	横浜美術館が開催した「昭和の肖像—写真でたどる昭和の人と歴史」展をベースに、アーツ前橋のギャラリーに合わせた展示を共同企画する。					
	【②活動】 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	広報戦略 新たな試み (転記)	1.他館との学芸レベルでの情報交換と協力関係の構築 2.国内コレクションの豊かさを紹介 3.来館者層の拡大					
	●指標 来館者反応 アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	7/6 写真でたどる昭和 石内都さん、荒木経惟さん、キャバ… 今日からアーツ(上毛新聞) 7/12 所蔵品貸し借り 展示に利点 貸し手 作品活用、時館PR 借り手 新しい客層を開拓(読売新聞) 7/20【上州日和】 73年目の夏(中島美江子)(朝日ぐんま) 7/29 写真で、平和の尊さ見詰め直す(東京新聞) 8/21【文化】「不完全」表現の力に アーティスト 小泉明郎さん 写真家 石内都さん(上毛新聞) 8/17 人物、風景、戦争、復興、高度経済成長—写真でたどる「昭和」アーツ前橋で9月3日まで(朝日ぐんま)					
	新たな試みの実績	1. 他館(横浜美術館)との連携と信頼関係構築 →企画から作品返却まで、事細かに情報共有をしながら、協力し円滑に事業を進められた。 2. 解説パネルを設置せずに、リーフレットを活用し鑑賞補助とした →ギャラリー内の照明が低かったため、読みにくいとの意見も多かった。 3. 横浜美術館友の会とアーツ前橋メンバーシップ間の割引等サービスの実施 →横浜/前橋ともに、この機会にそれぞれの企画展に足を運んだメンバーが数名いた。 4. 1階の「時をつなぐ」展との内容面での連携 →関連イベントのトークを含め、連携することで、展示会のメッセージがより深く伝わったようだ。						

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

事業名		横浜美術館コレクション 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史												
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)	
		335	65	404	0	180	508	482	0	0	1,029	3,003	58	
	有料観覧者率	42.8%	11%	2%	13%	0%	6%	17%	16%	0%	0%	34%		
		指標		目標値		達成値		達成率		特記事項				
一般指標	入場・参加者数		5,000 人		3,003 人		60.1 %							
	展覧会満足度		80 %		85.4 %		5.4 pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)					
	進捗管理 [スケジュール観]	①概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項()												
④ 成果	④成果 一覧表の「目標」に対する結果 観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	県内、美術(特に写真)愛好家											
		成果	展覧会テーマが「昭和」であったため、60代以上世代の来館は見込めるだろうと考え、メインビジュアルをあえて、若い世代、及び親子連れをターゲットに製作した。また、著名作家(例 土門拳、ロバート・キャバなど)の名前を大きく表記しなかったことにより、来場者数が伸び悩んだ。また、連日猛暑が続いたことも、来館者数の低迷と関連していた可能性がある。											
		ねらい1 (転記)	1.新たな観客の獲得											
		成果	アンケート結果から、春の横堀角次郎展と同様に、市内/県内の比較的年齢が高いお客様が多かった。また、初めて来館した方が50%を占めていることから、新たな客層の獲得という目的は達成されたようだ。ただ、来場者数は3003人と目標入場者数を達成することはできなかった。											
		ねらい2 (転記)	2.美術館機能の高さのアピール											
		成果	夏期通常の湿度は、50±5%の設定だが、横浜美術館の基準が50±2%であったため、露点温度/乾球温度を調整し、温湿度管理を徹底した。また、照度に関して、70lux以下を基本とし、作品保護に努めた。また、専門機関と連携し、害虫問題も定期的なモニタリングおよび燻蒸を行っている。											
		ねらい3 (転記)	3.収蔵作品への新たな視点の獲得											
		成果	石内都氏のような収蔵作家を「戦争」「女性」というコンテキストだけでなく、さらに大きな文脈で紹介できるように写真史を俯瞰して、今後の収蔵作品を考えていく必要性を感じることができた。											
	ねらい4 (転記)	4.長期的視点の美術館連携の可能性												
成果	今回は、横浜美術館が既に作った展覧会をパッケージとしてアーツ前橋の企画展として開催したが、今回構築された信頼関係を元に、今後の企画展の共同制作など学芸員同士の交流を通じた企画も展開できるだろう。													
⑤ 波及効果	個別評価 ※概ね1年経過後に再確認して修正(記入目を○内記載)	<1~6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒横浜美術館の学芸員と共に、企画から作品返却までの全ての行程を共に行った。アーツ前橋よりも、多方面で多くの知識と経験を持つ横浜美術館の展覧会運営や作品管理のノウハウを学ぶことができた。また、前橋写真月間と連携し、展覧会を同時期に開催することで、若手写真家の展示を街なかで同時に楽しめる企画となった。 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒2016年の横浜美術館での「昭和の肖像」展では、展示されていなかった石内都氏の展示空間を追加することにより、桐生を拠点に活動をする石内氏の初期の作品を地元ファンに発見していただくことができた。また、前橋出身の作家小泉明郎との対談を行うことで、群馬とゆかりがあり世界的に活躍する異なる世代のアーティストを知っていただけの機会となった。 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒横浜美術館の方たちが、他館の展示室で収蔵品見せることで、コレクションを見直し、再発見となる機会となった。また、須田一政《わが東京:青梅》をメインビジュアルとして使用したが、横浜美術館ではまず大きく取り上げられる機会の無かった作品がアーツ前橋の視点により新たな印象を与えるきっかけとなった。モノクロ写真の多いモトーンな空間になるところを、壁の色を変えることで、効果的な視覚効果を得ることができ、評価された。												

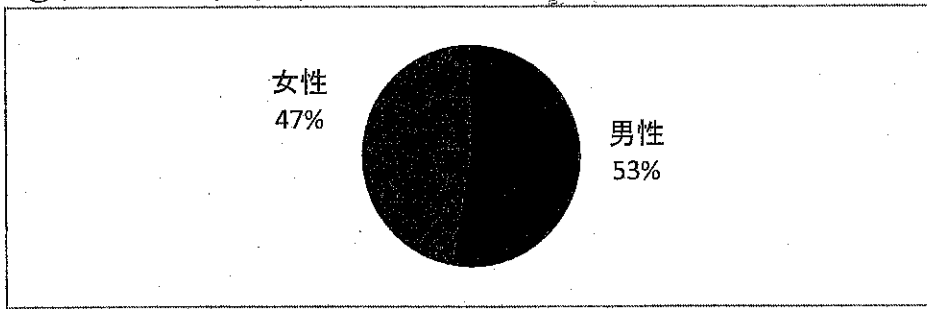
平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(3)

資料 1

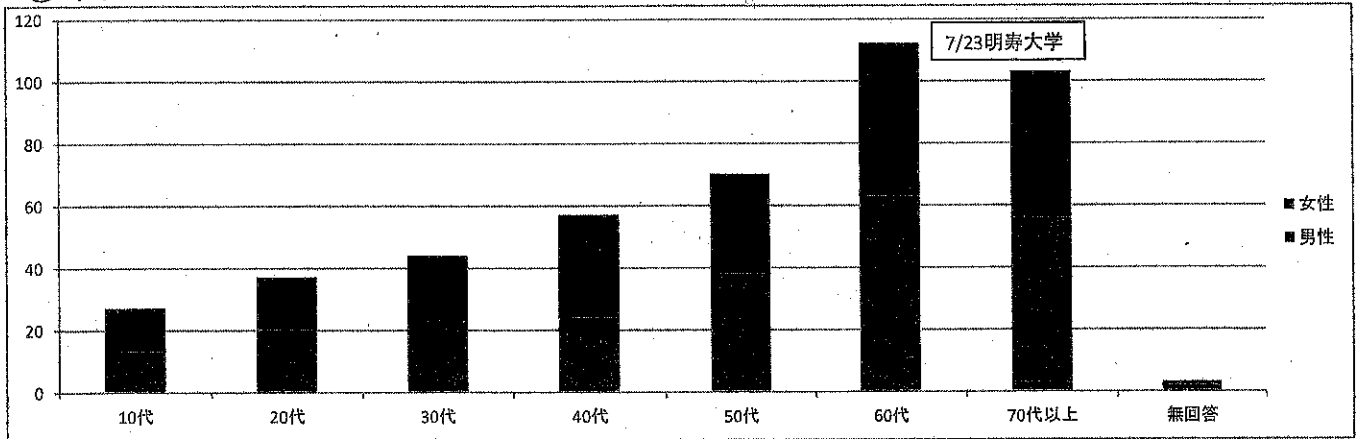
	事業名	横浜美術館コレクション 昭和の肖像 写真でたどる「昭和」の人と歴史			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	①非常に良い	2.良い	3.普通	4.劣る
	含目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	課題・改善点	<p>広報素材等は横浜美術館と共にスケジュール通りに進行することができたが、メインビジュアルのデザインをもう少し写真ファンや高齢者層にも訴えかけるストレートなイメージで広報をした方が、集客に繋がった可能性がある。</p> <p>来場者数が予想よりも少なかったことを考えると、県内の写真ファンへ情報を十分に届けることができなかった可能性が高い。公民館などの団体へのアプローチをしたものの、写真ファンの情報源を分析し、的確に情報を届ける必要性が課題として残った。</p>			
引継ぎ事項 (特記事項)	<p>温湿度管理を徹底して行ったが、横浜美術館の厳格な管理基準を満たすことは、季節によってはアーツ前橋では困難なこともある。今後も、様々な文化施設から作品を借用できるよう、今後も展示室の環境管理をしっかりとしていく必要がある。</p>				
コメント・意見	館長 副館長	<p>はじめて本格的な写真の展覧会を実施できたのは大きな成果だった。また、経験豊富な美術館との連携によって技術や人的交流を得られる結果になったのもよかった。広報の課題は引き続きよく検討していきたい。</p>			
	運営 評議会				

最終更新日: H30.11.23

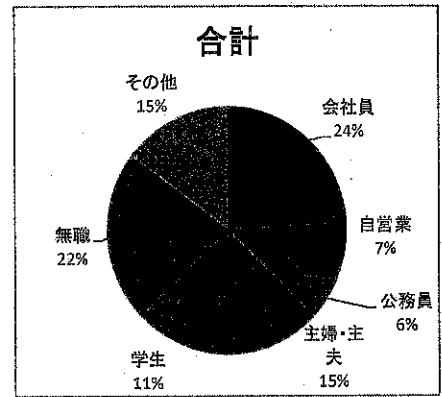
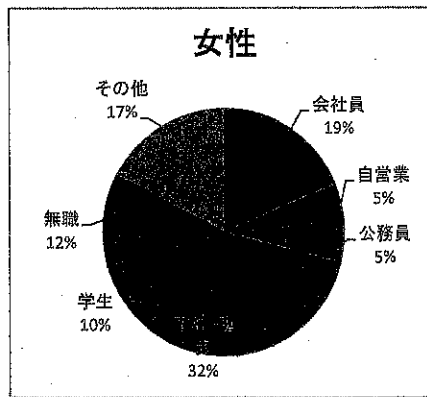
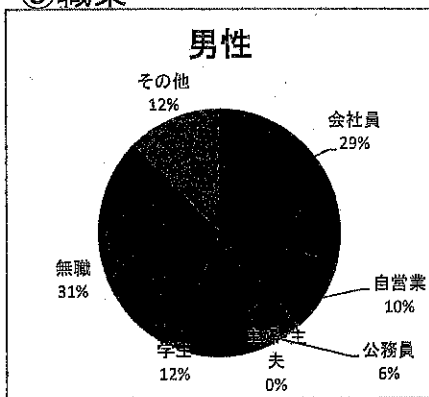
①アンケート回答数(453人)



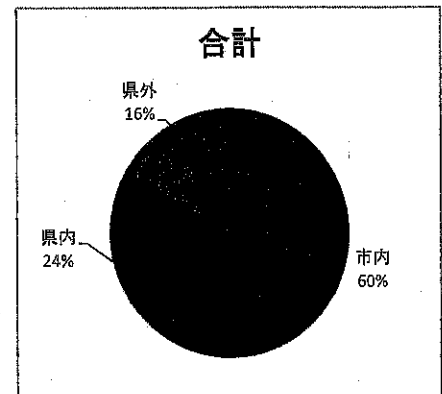
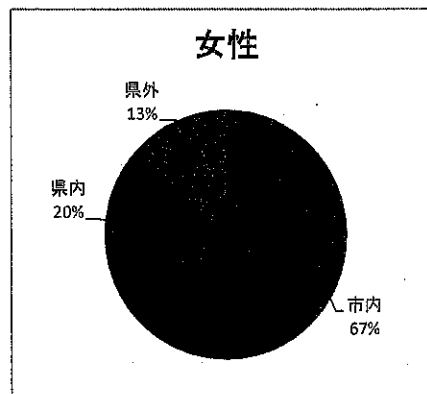
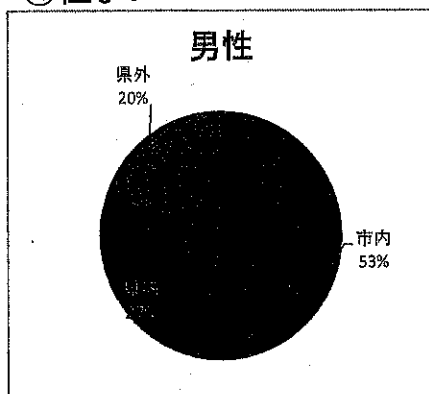
②年代



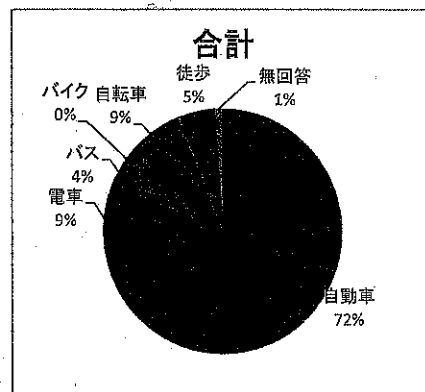
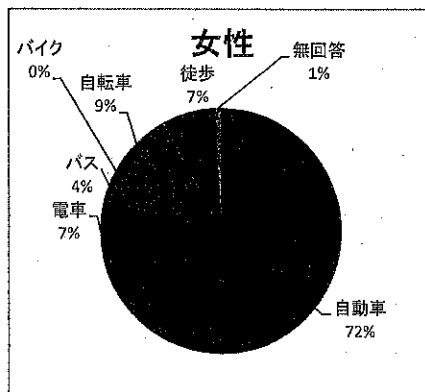
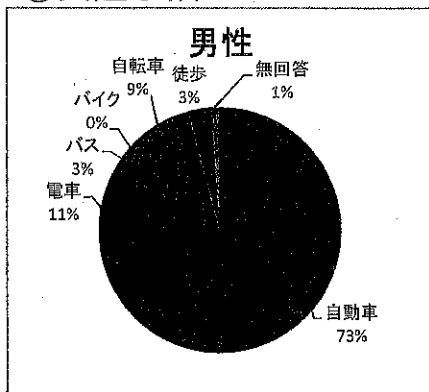
③職業



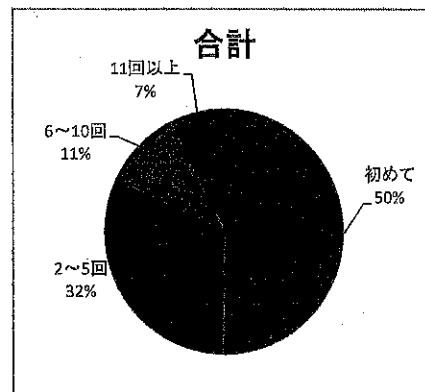
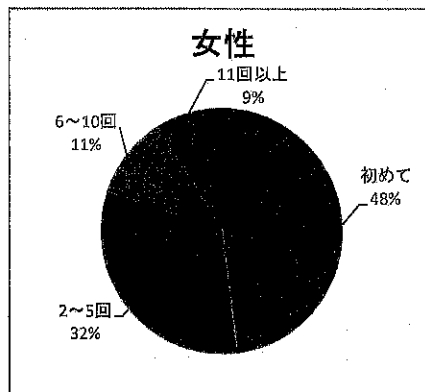
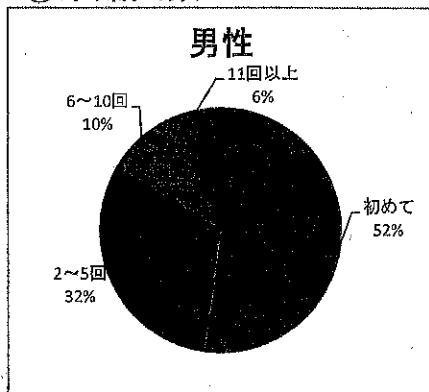
④住まい



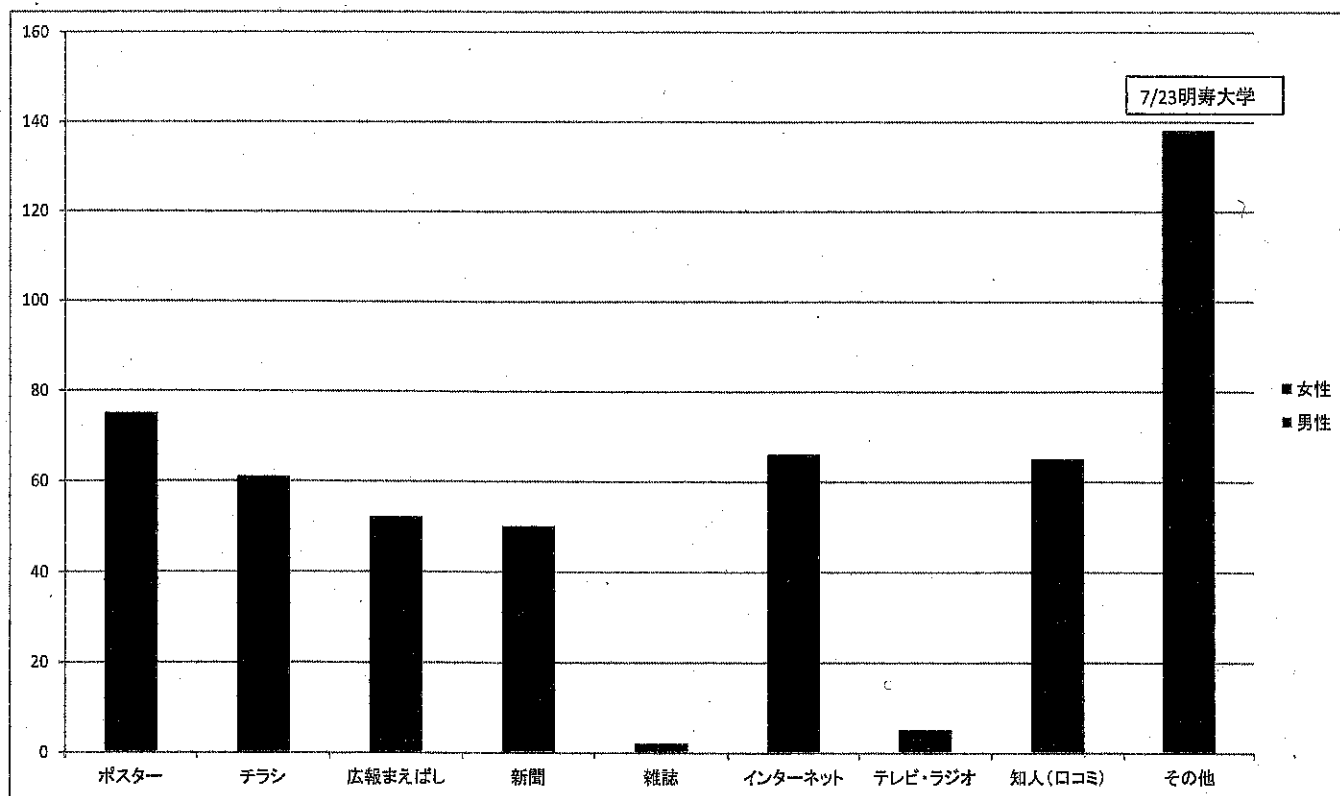
⑤交通手段



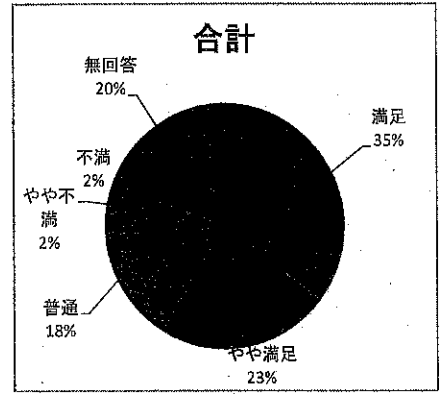
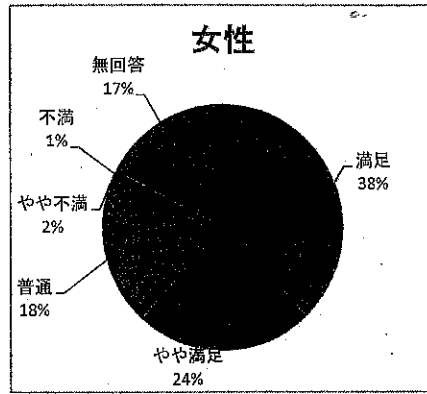
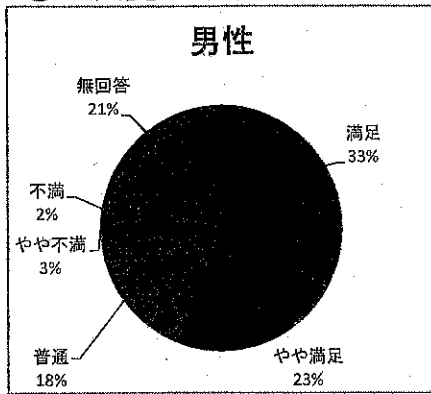
⑥来館回数



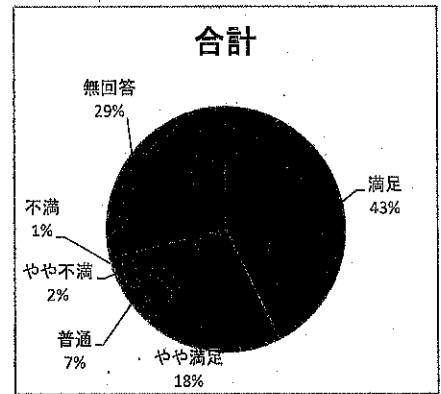
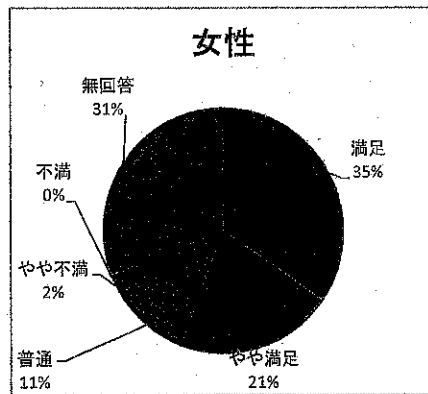
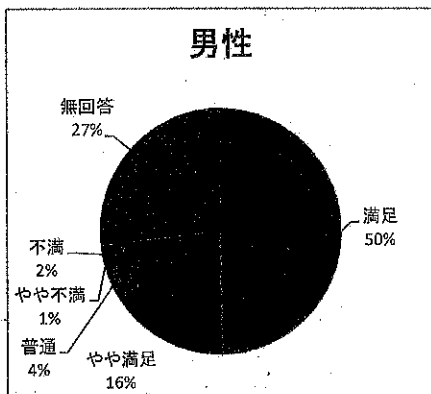
⑦企画展等を知った方法(※複数回答あり)



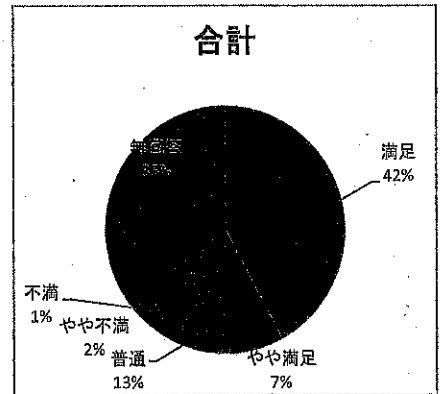
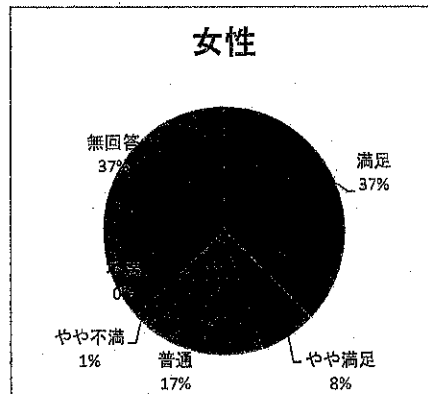
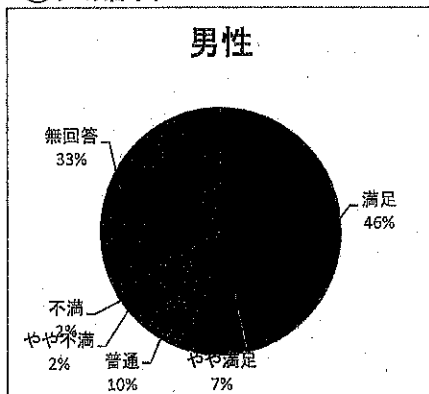
⑧-1 展覧会(時をつなぐ展)の内容



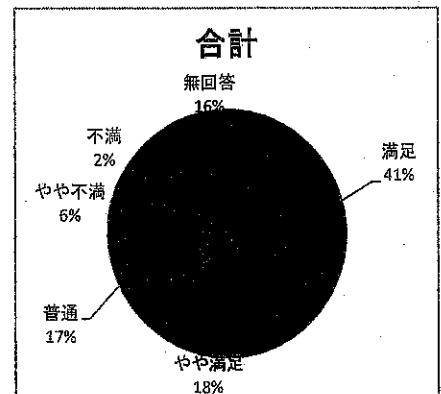
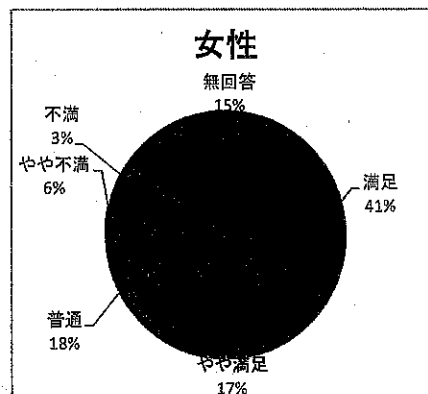
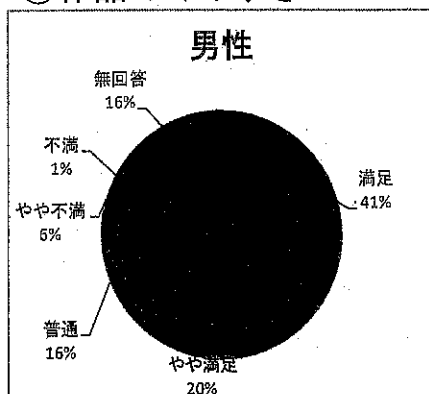
⑧-2 展覧会(昭和の肖像展)の内容



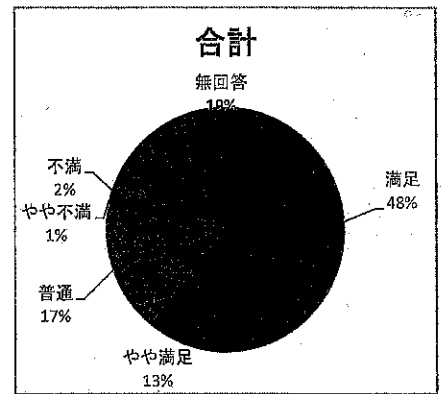
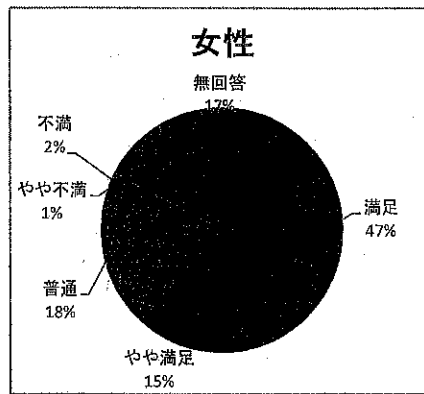
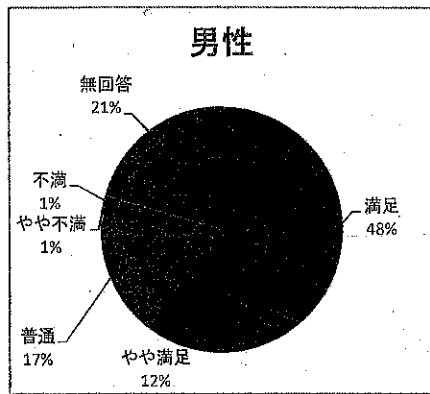
⑨ 入館料



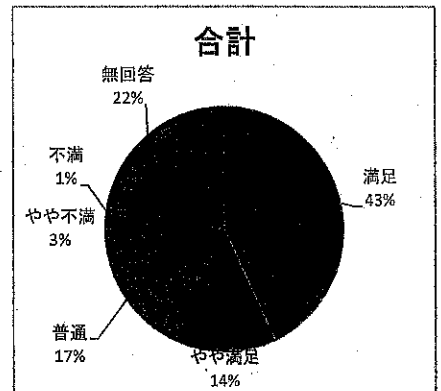
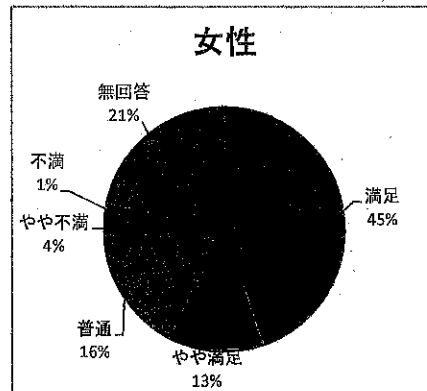
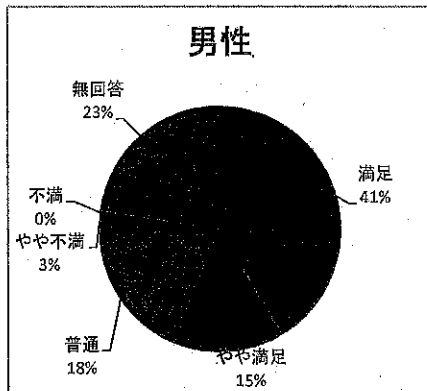
⑩ 作品のみやすさ



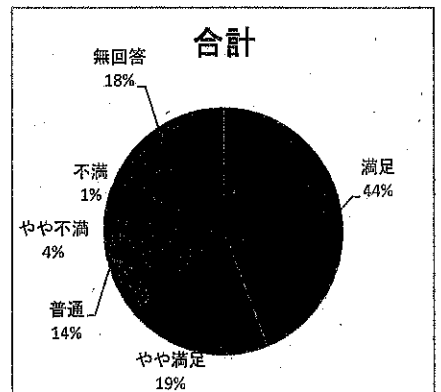
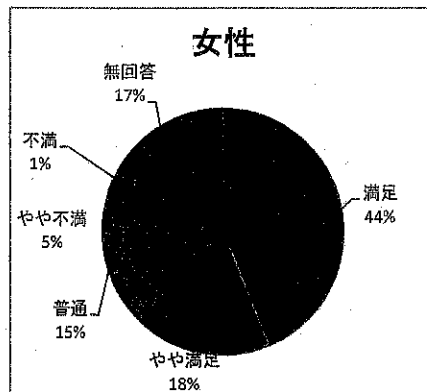
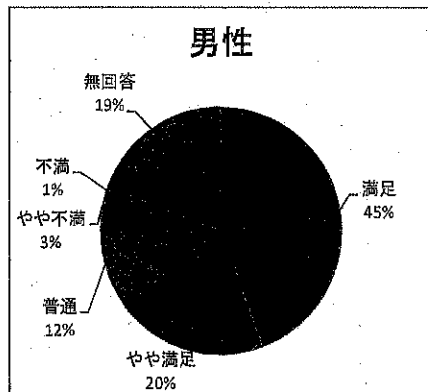
⑪ スタッフの対応



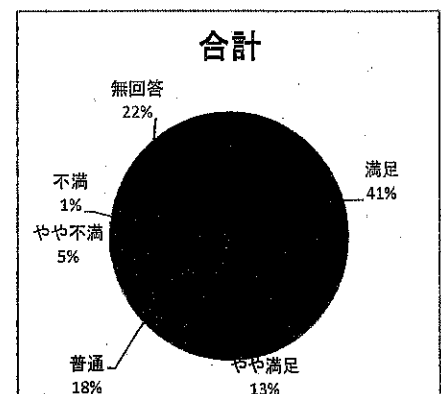
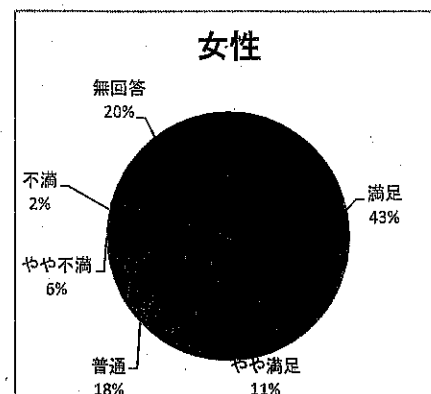
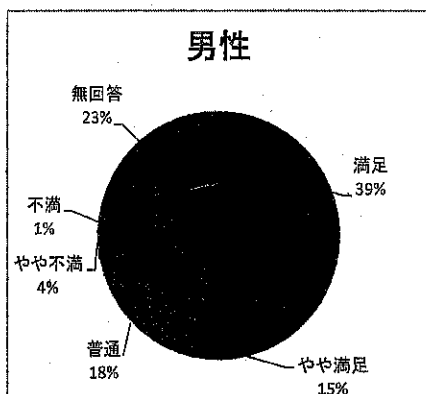
⑫ 施設の利用のしやすさ



⑬ アーツ前橋全体の印象



⑭ アーツ前橋までの道順のわかりやすさ



(時をつなぐ展)

- もう少し作品点数が多いといいと思いました(男性・40代)
- 貴重なコレクション 思い出深く見させてもらいました。(男性・70代)
- 風景画が素晴らしく、写真にとれたこともうれしいです。(女性・40代)
- 小展示ながらとても見ごたえがあり じっくり居座ってしまいました。(男性・30代)

(昭和の肖像展)

- その時代に生れ、生活をして来たので戦前、戦中、戦後の写真で、夢中に見られ、思い出とともにつらかった。この写真展を見て平和でありたいと強く思いました。(男性・70代)
- 前回、順路について感想を書いたものです。今回の展示、順良く、見やすく大変感動致しました。(男性・20代)
- かべが白だけでなかったのがよかったです。(男性・30代)
- 自分史を体感、解説文が小さくて見にくい、読みやすい展示がほしかった。(男性・70代)
- どのページを見たらよいか、よくわかって、見やすかったです。戦争のことを考えさせられました。(女性・40代)
- 作品目録、文字が小さい。昭和の肖像、展示作業内に「〇〇頁を見るように・・・」とあっても頁の数字が小さくめがねをかけても見づらい。時間をたっぷりかけてじっくり見せていただきました。ありがとうございました。(女性・70代)
- 写真の展示が見られる場所が県内にはなかなかありませんので、大変よい展示でした。現代写真の企画展もぜひお願いします。(男性・40代)
- 写真がとれる所がもっとあると良いです。(女性・40代)

(共通)

- 小泉明郎さんが手をかけた前橋空襲の展示は歴史を語る上で良い。知られざる画家・女優に関する当時のポートレートが見られてうれしかったです。昭和、平成と天皇の即位が変わる中で、失われた写真を再発見する試み良いと思う。(男性・30代)
- 今の表現を下階の展示と対比してみることができた。(女性・40代)

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。							
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。							
事業名称	滞在制作(海外)	滞在制作(群馬県ゆかり)	文化支援事業 前橋まちなかアーツ助成	つまずく石の縁 地域に生まれる アートの現場				
時期・日数	(1)2018年6月～8月頃 60日程度 (2)2018年11月～2019年1月頃 60日程度	(1)2018年9月～10月頃 30日程度 (2)2019年2月～3月頃 30日程度	2018年10月12日～11月4日	2018年10月12日～11月4日の金土日 12日間				
場所	堅町スタジオほか	堅町スタジオほか	中心市街地各所	中心市街地各所				
学芸担当者	五十嵐	五十嵐	五十嵐	五十嵐				
実施方法 委員会形式 助成 巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジ デンス活動支援を通じた国際文化 交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジ デンス活動支援を通じた国際文化 交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:一般財団法人 自治総合セン ター				
記入日	2018/3/23	2018/3/23	2018/7/15	2018/7/15				
【目的】 観覧者層のターゲット ねらい	多様な国や地域で活動するアー ティストを地域に紹介し、創作活動 を支援。また、海外のアーティストの 目を通して地域資源の発掘につな げる。 前橋で制作された作品が海外で発 表される。地域の作家や住民との長 期的な関係性を構築する。 ターゲット:近隣住民、市内 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	作家の創作活動支援。市内・県内 での活躍の場を広げることを目指 す。 東京などの人口集積地や、自分に 地縁のある場所だけにとどまらない 発表の場の創出とそのネットワーク の形成を目指す。 ターゲット:近隣住民、県内 ①幅広い表現者の紹介 ②館外活動により、幅広い層への活 動紹介	市民が様々な芸術文化に触れる機 会の創出 ・まちなかで活動する芸術文化団体 等への支援及び相互の交流機会の 創出 ・まちなかの回遊性の向上によるに ぎわいの創出 ・市内を中心に文化活動を続ける団 体・個人とのネットワーク形成 ターゲット:若者、近隣在住者 ①まちなかイベントの創出 ②芸術文化に関わる人材の増加	・滞在制作は成果が見えにくい特性 があることから、事業内容をPRする 絶好の機会とする。 ・滞在制作は、滞在中に作品のす べてが完成するものではなく、アー ティストの滞在制作後の活動が加味 されて評価できることから、その波及 効果を測定する。 ・中心市街地の各所を会場とし、回 遊性の向上とリピーターの獲得に繋 げる。 ターゲット:近隣住民、外国人 ①滞在制作事業の意義が認知さ れ、理解が進む。 ②多文化交流によって街なかで活 動する人々同士の、国際的な相互 理解が深まる。 ③中心商店街を拠点とする新たな プレーヤーの創出に繋がる ④海外におけるマエバシの認知向 上				
【①投入】 成立予算	3,576千円	900千円	900千円	900千円				
【②内容・活動】 事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招 聘し、滞在制作活動を行なう。	群馬県にゆかりのある作家に対し、 地元での制作環境を支援するた め、滞在制作を行なう。	過去4年実施してきた、まちなかで活 動している芸術文化団体への助成。 めぶくフェス(アート部門)との役割分 担を踏まえ、より芸術活動に主軸を おいて継続的(3年以上の実績)に 活動する団体・個人を支援する。	開館5周年にあわせ、滞在制作の 拠点である「堅町スタジオ」を拠点に して創作活動を行ったアーティスト によって、中心商店街の空き店舗や 施設を活用して、展示を行う。				
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	アジアを中心とした地域のアーティ ストを招聘し、地域の外国人との交 流を生む。	年齢の枠を設け、若手の支援も行 う。演劇などの美術以外の多様な ジャンルの受け入れを行う。	・参加者ミーティングの実施によるプ レイヤー相互の理解、相乗効果によ る発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定 し、柔軟に対応 ・めぶくフェス(アート部門)との役割 分担	パスポート制をPRしてリピーターの 獲得に繋げる。 8カ国の作家が参加することから、 ワールドワイドな発信を行う。 中心商店街からのアプローチで対 象者を抽出する。 外国人学校への積極的な広報を行 う。				
【数値目標】-【結果】	イベント回数 2回	結果	イベント回数 2回	結果	支援対象団体 数 10組	結果 11組	イベント日数 3回	結果 4回
指標1	参加者数 200名		参加者数 200名		イベント回数 20回	集計中	参加者数 1000 名	2306人
指標2					入場者数 1000名	集計中		
指標3								
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のター ゲット、ねらいに対する 成果(評価調査からト ピックを転記)								
特記事項								参加者数:2209名+オープニング97名

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(1)

資料1

基本事項	事業名	つまずく石の縁 地域に生まれるアートの現場						
	会期	2018年10月12日～11月4日の金土日			開館日数	12日間		
	会場(ギャラリー)	市内中心市街地8箇所			実施方式	02自主企画・名義共催方式		
	観覧料	ガイドブック	600円	(観覧パスポート)	出品点数	27点		
	担当者	学芸:五十嵐 純 事務:堺 大輔、佐藤 恵司						
	目的・目標	・滞在制作は成果が見えにくい特性があることから、事業内容をPRする絶好の機会とする。 ・滞在制作は、滞在中に作品のすべてが完成するものではなく、アーティストの滞在制作後の活動が加味されて評価できることから、その波及効果を測定する。 ・中心市街地の各所を会場とし、回遊性の向上とリピーターの獲得に繋げる。						
	キーワード	滞在制作事業、地域連携、館外活動、街なか						
	他団体との連携 (共催、協力等)	主催:アートによる文化交流推進実行委員会(事務局、共催:アーツ前橋) 主催:中心商店街協同組合 助成:一財)自治総合センター 後援:イスラエル大使館						
	参加作家	アンナ・ヴィット	イルワン・アーメット&ティタ・サリナ	梅沢英樹	片山真理			
		木村崇人	ケレン・ベンベニスティ	衣真一郎	ダラ・リーヴス			
	萩原留美子	ヘヴン・ベク						
関連イベント	10/12 アーティストトーク 本展参加作家 10/20、28 ガイドツアー 講師:臼井敬太郎、橋本薫 10/28 地域のつまずきと縁 11/4 梅沢英樹ライブ ゲスト:上村洋一							
① 投入(支出) ③ 結果(収入)	印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	マップ	リーフレット(B5)	リーフレット	パスポートブック	
		1,500部	40,000部	2,500部	5,000部		1,000部	
	収入/支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)÷(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳		
						観覧料	自治総他	中心協
	予算	5,979,000円	7,350,000円	81.3%	7,350円	260,000円	3,612,000円	2,107,000円
	決算	集計中	集計中	-	-	集計中	集計中	集計中
差額								
予算/決算								
② 内容・活動	〔①内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	開館5周年にあわせ、滞在制作の拠点である「堅町スタジオ」を拠点にして創作活動を行ったアーティストによって、中心商店街の空き店舗や施設を活用して、展示を行う。					
	〔②活動〕 主な取組(手段)の結果 メディア等広報実績 新たな試み 図録 関連イベント 助成 など	・広報戦略 ・新たな試み (転記)	パスポート制をPRしてリピーターの獲得に繋げる。 8カ国の作家が参加することから、ワールドワイドな発信を行う。 中心商店街からのアプローチで対象者を抽出する。 外国人学校への積極的な広報を行う。					
	●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	広報実績 [新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件]	東京新聞「商店街で生まれ 溶け込むアート 前橋 27作品展示」10月12日 上毛新聞「国内外の作家 前橋中心街をアートに11月4日まで週末展覧会」 10月12日 美術手帖Web 掲載 Artit Web 掲載					
		新たな試みの実績	1. 商店街の空き店舗など館外の8会場を用いた →商店街と共同し、地域資源を有効活用できた 2. 地域で活動する編集者やデザイナーと協働 →チームを館外の方と構成することで、今後の活動の可能性が広がり、ネットワークが強固なものとなった 3. 学生スタッフの導入 →近隣大学の日本人学生や留学生らに会場アルバイトとして入ってもらうことで、コミュニケーションの誘発と地域に若者が入っていくきっかけとなった。					

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

資料 1

事業名		つまずく石の縁 地域に生まれるアートの現場											
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段 人数(人) 下段 割合(%) ※色付きは有料観覧者 有料観覧者率	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,306	192
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項							
		イベント日数	3 日	5 日	166.7 %								
		参加者数	1,000 人	2,306 人	230.6 %	目標値は当初予定した有料観覧者数 達成値は観覧の延べ人数							
	進捗管理 「スケジュール観」	①概ね円滑に進んだ ②遅延気味であった() 開館後まで積み残しとなった事項()											
④ 成果	観覧者層のターゲット	ターゲット:近隣住民、外国人											
	成果	オープニングを商店街で行うことで、多くの地域住民に活動と事業を伝えることができた。近隣の語学学校や外国人の方に向けた割引などを実施したが、広報の遅れにより、広く周知ができなかった。またアンケートや人数カウントに外国人向けのものを設けることができなかったことで、反省材料としての数が把握できていない。											
	ねらい1 (転記)	滞在制作事業の意義が認知され、理解が進む。											
	成果	これまで見えにくかった滞在制作事業を展覧会にすることで、完成した作品を紹介し、成果を伝えることができた。チケットの代わりに、地域を作家のリサーチの視点から掘り下げて紹介する本を作成することで、作品の完成以外の滞在制作の成果や一過性ではない情報の蓄積を作ることができた。											
	ねらい2 (転記)	多文化交流によって街なかで活動する人々同士の、国際的な相互理解が深まり、海外において前橋の認知が広がる											
	成果	マップの説明文を日本語学校の学生らに協力してもらい翻訳を行うことや、会場スタッフに留学生らが参加することで、運営自体にも文化交流の場が持たれた。また、日本を含めた8か国で活動するアーティストを同時に紹介することで、それぞれの国や地域で前橋で制作を行った作品を展示していることが伝えられ、同時期に滞在していない作家同士の交流を持つことができた。											
	ねらい3 (転記)	中心商店街を拠点とする新たなプレーヤーの創出に繋がる											
	成果	本の制作を地元の編集者、デザイナーと行い、会場設営や運営を地域で活動するアーティストらと行うことで、コンパクトながら動きやすいチームを構成できた。当日の運営に携わった学生らからは、地域の面白さに気づけたなどの声も多く上がり、若い世代の活動のきっかけとなるものとする。											
⑤ 波及効果	個別評価	<1~6は、記入項目の例。独自の評価項目の設定可。> 1. 参加作家のその後の活動を評価 ⇒該当なし 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒該当なし 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価 ⇒初めての地元商店街との共催開催を実施することができた。滞在制作事業が地域で認知されたことにより、今後の活動が円滑になるきっかけづくりになったと考える。 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒該当なし 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒しばらくの間用いられていなかった物件を利用することで、場所の可能性を開くことができた。展覧会后、学生らが同会場を用いて展覧会を行った。 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒該当なし											
	※概ね1年経過後に再確認して修正(記入日を○内に記載)												

平成30年度 アーツ前橋事業評価調書(3)

資料1

事業名		つまずく石の縁 地域に生まれるアートの現場			
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る
	課題・改善点	最終的にスケジュールはおおむね円滑に進んだともいえるが、外部とのチーム構成のため、情報等の共有に時間がかかったことや、業務の割り振りが明確でない部分があったため、最終的には業務量が大幅に増え、細部に手の回らない状態になってしまった。 地域住民や外国人に向けた取り組みを意図していたが、アンケートや入場者カウントなど反省材料となるようなデータの収集が不足してしまった。共催の商店街との情報共有も遅れたため、地域の方々の積極的な関与に関しても反省が残る。 外部のプレイヤーとの協働には大きな意義が見いだせるものとなったが、当事者性を持ってもらう上では、より早い段階で、また頻度を高く情報共有をする必要性があった。			
引継ぎ事項 (特記事項)					
コメント・意見	館長 副館長	館外の展示と運営は困難も多く、事故もなく実現できたのは素晴らしい。なかなか成果が見えづらかった滞在制作事業の魅力を発信することにもつながった。会場設営についてはスケジュール管理や情報共有によって改善できると思うので今後の課題にしてほしい。			
	運営 評議会				

更新日: H30.3.28 H30.7.18 H30.11.20